

## 汽水域研究会 NEWS LETTER

## 新会長ご挨拶

## 山口啓子汽水域研究会新会長より就任のご挨拶

この度、入月俊明前会長の後任として2024年（令和6年）1月1日より汽水域研究会の会長を務めさせていただくことになりました山口啓子です。島根大学学術研究院環境システム科学系所属で、主に生物資源科学部の環境共生科学科を担当する教員として、日々、学生の教育と研究に尽力しております。専門は水圏生態学、水圏の生物と環境に関する研究を行っています。汽水域とのつきあいは、思い起こせば大学の卒論で渥美半島の第四系内湾汽水域の貝類化石群集と貝層発達史を明らかにしてから、本格的には島根大学汽水域研究センターにポスドク研究員として雇っていただいて以来です。就任当時は、中海本庄工区の干陸か水域利用か、を議論するための潮通し実験の効果検証に携わりました。現在、汽水域に関する研究としては、中海の環境と二枚貝との関係、貝殻や魚の耳石をもちいた経験環境履歴解読に関する研究を中心に、宍道湖やその周辺水域に関する研究にも係わるようになりました。



山口啓子新会長

汽水域研究会では、機関誌「Laguna」について、かつて編集委員長を務めさせていただきました。その間に、投稿・掲載論文数を増やすことができ、さらにその後の作野前編集委員長や香月現編集委員長、ならびに多くの関係者のご努力が実り、ついにこの春、念願であったJ-Stageへ学術雑誌として登録されることになりました。これにより、学術雑誌としての認知度が上がること、検索や引用機会が飛躍的に増加することが期待されます。2024年は汽水域研究がよりパワーアップする飛躍の年になりそうです。

また、汽水域研究に欠かせないのが、人材の育成だと考えております。汽水域はその環境の複雑さから、私の世代には扱いを避けるような研究者が多かった様に思います。しかし、地球温暖化などの気候変動、極端な集中豪雨による内湾の低塩分化・貧酸素化など、環境変動のホットスポットとして、汽水域研究の需要が益々高まっています。汽水域研究をになう若手研究者、そしてその卵である学生たちが研究成果を発表できる場としての汽水域研究会の重要性・社会要請も益々高まっていると云えます。汽水域研究の面白さを伝え困難さを克服する人材育成が、研究会活動を通じて広がることを祈念しております。

最後に、本会副会長の瀬戸先生や役員幹事の皆さんと力を合わせて、汽水域研究を盛り上げていきたいと思っておりますので、皆様には是非とも忌憚のないご意見とご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

2024年3月 山口啓子

新役員（2024年1月1日～2025年12月31日） 役員一同、研究会の発展のために一生懸命務めて参ります。

会長	山口 啓子	（島根大学）	副会長	瀬戸 浩二	（島根大学）
事務局長	瀬戸 浩二	（島根大学）	編集幹事	香月 興太	（島根大学）
企画幹事	川井田 俊	（島根大学）	大会幹事	安藤 卓人	（秋田大学）
情報幹事	金 相暉	（島根大学）	監査	召古 裕士	（NPO法人日本エコビレッジ研究会）

## 汽水域研究会第12回例会（汽水域合同研究会2024）開催報告

毎年新春恒例となっている島根大学エスチュアリー研究センター(EsReC)第31回汽水域研究発表会と汽水域研究会第12回例会の合同研究発表会が2024年1月6・7日にオンラインと対面（会場：島根大学）を併用したハイブリッド形式にて開催されました。

2日間でのべ214名の参加がありました。シンポジウム「時間的・広域的な視点から見た中海・宍道湖の生態系」には5つの特別講演、「汽水域一般I・II」「水圏生態研究」「環境変動解析」に区分される常設セッションおよび「完新世環境変遷」と題したスペシャルセッションにはあわせて33の一般講演が発表されました。また、去年と引き続き高校生の発表3件(松江市立皆美が丘女子高等学校2件、島根県立安来高等学校自然科学部1件)がありました。特に、今年度から新し設けられたジュニアドクター育成塾研究発表において、津市立上野小学校による研究発表がありました。トピックは、「ハクセンシオマネキの視力検査」であり、三重湾における様々な実験を行い、高校生と小学生皆様が大学レベルのすばらしい研究内容と発表であり、「発表賞」として顕彰されました。来年度のジュニアドクターから一般まで、様々な方のご発表をお待ちしております。



高校生・ジュニアドクター育成塾研究発表の様子(左:皆美が丘女子高の生徒さん、中:安来高校の生徒さん、右:津市立上野小生徒さん) 撮影:船来 桂子

今大会の特徴として、時間的・広域的な視点から見た中海・宍道湖の生態系の調査結果などが挙げられます。2006年・2016年・2021年において行われた生態系の広域モニタリングの結果とエスチュアリー研究センターの若手研究者が中心で2021年に行われた中海・宍道湖の26河川の水質・生態系の広域調査結果の発表がありました。特に、河川広域調査は、専門の違いエスチュアリー研究センター3部門の若手4人が、計画から調査と論文化まで共同で行った研究であり、来年度からも定期調査を実施することになっており、今後も研究分野を超えた若手研究者のシナジーによる研究成果が期待されると会場からのコメントもありました。



宍道湖の周辺河川における水質調査の様子  
2021年9月6日映像  
提供:金 相暉

### 学生賞報告

## 汽水域研究会第12回例会 学生賞授与

汽水域研究会では優秀な若手人材の育成と学生の研究意欲向上を目的として、「汽水域研究会会長賞」と「エスチュアリー研究センター長賞」を優秀な発表を行った学生に授与しています。第12回例会においては、以下のとおり受賞者が決定しました。2023年3月21日にエスチュアリー研究センター長室にて授与式を行いました。今回「汽水域研究会会長賞」を受賞したのは、島根大学大学院自然科学研究科の白井大喜さんと広島大学大学院先進理工系科学研究科の平尾彩樹人さんの2名、「エスチュアリー研究センター長賞」を受賞したのは島根大学大学院自然科学研究科の山根広途さん、島根大学生物資源科学部の三木芽衣さんの2名でした。

一方、学生賞は、松江市立皆美が丘女子高等学校の青山千聖・西 杏里・平木真菜さん、津市立上野小学校の益川誠一さん、島根県立安来高等学校の久保拓慎・野崎正明・佐々木大晴さんでした。受賞されたみなさま、おめでとうございます！

汽水域研究会会長賞

臼井大喜さん

島根大学大学院 自然科学研究科

「松江近郊の止水性淡水及び汽水域に生息するミナミメダカの繁殖期」

(臼井大喜・田久和剛史・松田烈至・岡本祐可子・山口啓子) 得点：20.8点

「受賞できたこと、大変嬉しく思います。このような賞を賜りましたのも私を支えてくださった方々のおかげです。お世話になった方々への感謝を忘れずに、今後の活動に関しても研究活動で培った経験を活かして自信をもって取り組みたいと思います。」

平尾彩樹人さん

広島大学大学院 先進理工系科学研究科

「Himawari-8データを使った西ノ島の噴火活動の初期評価」

(平尾彩樹人・作野裕司) 得点：20.4点

「この度はこのような栄えある賞をいただき、ありがとうございます。学部4年から修士まで研究にご協力・ご指導くださった作野先生、研究室の仲間たちにこの場を借りて心より感謝申し上げます。卒業後は少し今とは異なる分野で就職することとなりましたが、研究活動で得たスキルとこの汽水域研究会において学生賞をいただいたという自信をもって、社会人として精進してまいります。」

学生賞

青山千聖・西 杏里・平木真菜さん

松江市立皆美が丘女子高等学校

「大橋川のホトトギスガイとヤマトシジミの分布状況についての考察」

「発表に賞状までいただき、ありがとうございました。大学の先生方や学生の皆さんの前での発表だったので、とても緊張しましたが、よい経験でした。今後は大橋川の横断面のこまかな流動の状況やホトトギスガイなどの生活史などをさらに研究できたらと考えています」

益川誠一さん

津市立上野小学校

「ハクセンシオマネキの視力検査」

「三重県から島根県に向かっている最中も楽しみだな、緊張するな、嬉しいな、いろいろな感情で胸がいっぱいでした。発表する前は、たくさんの方々がいて緊張しました。発表後には、たくさんの方々から研究のアドバイスをいただき、とても勉強になりました。このような発表は初めての経験でしたが、自分の研究成果を皆様に知っていただけて、非常に嬉しく思っています」

エスチュアリー研究センター長賞

山根広途さん

島根大学大学院 自然科学研究科

「中海に生息する二枚貝によるマイクロプラスチックの取り込みと排出」

(山根広途・倉田健悟) 得点：21.1点

「大変光栄です。倉田先生や研究室の皆への感謝を忘れず、社会でも進んでまいります。学生賞をいただきましたこと、大変光栄に思います。研究室に配属されてから3年間にわたってご指導いただいた倉田先生をはじめ、研究室の皆、その他ご支援いただいた多くの方々へ心より感謝いたします。卒業後は島根県で水産関係の仕事に就職しますので、今まで学んだことを活かし、島根県の水産業の発展に貢献できるよう精進してまいります。」

三木芽衣さん

島根大学 生物資源科学部

「中海の弁慶島における海藻群落と生物群集の関係」

(三木芽衣・岩井智明・外谷昭洋・倉田健悟)

得点：20.6点

「大変光栄です。倉田先生や研究室のみなさんの協力あってこそ頂けた賞です。心より感謝申し上げます。私は島根大学大学院に進学予定です。研究を楽しむことを忘れず、今後とも中海の豊かな汽水環境を復活させる原動力としてフィールドワークを行い、地域の課題解決に貢献できるよう精進してまいります！」

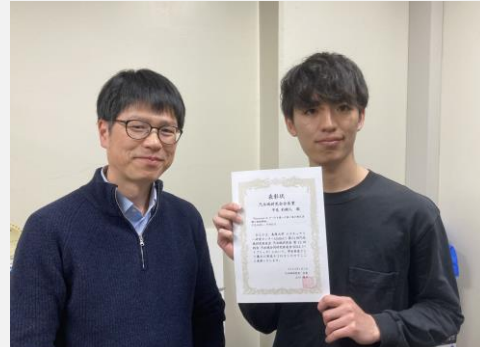
※学生賞対象発表者の平均点は19.6/25点満点でした

久保拓慎・野崎正明・佐々木大晴さん

島根県立安来高等学校自然科学部

「中海(なかうみ)・生草(まなくさ)・空き缶電池」

「発表はとても緊張した。緊張のあまり、発表後ではあったがお昼御飯が食べれなかった。これからも研究を続け、論文を書いてみたい。」



記念撮影(左から倉田准教授、三木さん、山根さん、齋藤エスチュアリー研究センター長、臼井さん、山口汽水域研究会会長) 撮影:船来 桂子・広島からの写真(右から平尾さん、作野准教授)

## 関連学術大会のご案内

- |   |   |   |
|---|---|---|
| ◆ 汽水域研究会第13回例会（網走）  | ◆ 日本地球惑星科学連合2024年大会   | ◆ 北太平洋海洋科学機関2024大会  |
| テーマ：「汽水湖・網走湖の現状と展望」   | 会期：2024年5月26日～31日 6日間   | 会期：2024年10月26日～11月1日 7日間  |
| 会期：2024年5月17日 13：30～17：00   | 形式：ハイブリッド（現地+オンライン）   | 形式：対面   |
| 形式：ハイブリッド（現地+オンライン）   | 会場：幕張メッセ（千葉県）   | 場所（会場）：Honolulu   |
| 会場：東京農大オホーツクキャンパス（網走市）  | 詳細： <a href="https://www.jpgu.org/">https://www.jpgu.org/</a> | 詳細： <a href="https://meetings.pices.int/">https://meetings.pices.int/</a> |
| 詳細： <a href="http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/">http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/</a> |   |   |

## エッセイ

### 干潟に行こう～有明海の干潟とまえうみ

有明海の干潟は、日本全国の干潟面積の約40%を占め、日本最大の干潟を誇っている。この干潟は、水質浄化や生物多様性の維持、漁業生産の場、そしてレクリエーションの場として重要な役割を果たしている。特に、有明海はムツゴロウ、ワラスボ、エツなどの特産種が豊富で、沿岸地域の人々は、この海に広がる干潟を「まえうみ」と呼び、親しんできた。昔から干潟漁業は行われており、その美しい海岸線と干潟は多くの人々を魅了してきた。しかし、1990年代後半以降、諫早湾潮受け堤防建設問題などをきっかけに、地域社会問題が顕在化した。また、大規模な貧酸素水塊の形成や赤潮大発生など、環境問題も深刻化している。漁獲量も過去最大の10分の1にまで減少し、一部の種類は禁漁となっている。しかしながら、最近では干潟の代表種であるアゲマキが多く出現しはじめ、一部の海域で漁獲が解禁されるなど、有明海再生への兆しが見えている。干潟は地域の人々にとって親しまれてきた場所であり、昔から干潟漁業が行われてきた。しかし、海苔養殖技術の発達とともに、干潟漁業者の多くが海苔養殖業に転向し、干潟への利用が減少してきた。この変化により、底生生物の減少が進み、有明海の環境悪化が進んだ可能性がある。このような状況を踏まえて、有明海の再生に向けた取り組みが必要である。地域の人々が干潟を大切にし、その豊かな生態系を保護することが求められる。また、伝統的な干潟漁業の復活や地域コミュニティの活性化など、干潟と人間が共生する新たな形を模索することも重要である。元鹿島市干潟交流館指導員の藤井直紀博士（日本気象協会）も、潟遊びなど住民の生活に「干潟」の存在が組み込めれば良いと考えている。例えば、佐賀県鹿島市では昭和60年5月3日から毎年一回「鹿島ガタリンピック」を開催している。コロナ禍中は中止されていたが、再開されている。2012年に荒尾干潟、2015年には肥前鹿島干潟と東よか干潟がラムサール登録湿地になったことで地域民が干潟を使ったイベントを頻繁に開催しはじめている。肥前鹿島では「潟踏み」イベントと称して干潟の環境の人間活動との関係を見直そうとしている。そのような取り組みによって、有明海の干潟と人間がより持続可能な共生関係を築くことが期待される。そのためには、地域の人々が干潟を大切にし、その豊かな生態系を保護することが不可欠である。また、伝統的な干潟漁業の復活や地域コミュニティの活性化も、新たな形での干潟と人間の共生を模索するうえで重要な要素であろう。



（情報幹事 金 相嘩） 鹿島市干潟のウナギツカ体験 撮影：金相嘩

## 会員数（2024年3月31日）

正会員：79名（-1）、賛助会員：5名（±0）、  
学生会員：42名（+1）、計：126名  
#カッコ内は2023年9月30日からの増減を示す

## 編集後記

ニュースレター第27号の編集・発行が情報幹事としてはじめての仕事でした。2年間皆様に面白く読んでいただけるニュースレターになるように励みたいと思います。（金）

汽水域研究会ニュースレター第27号 2024年3月31日発行 編集・発行：汽水域研究会

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060島根大学エスチュアリー研究センター内 汽水域研究会事務局

office.rgbwa@gmail.com 0852-32-6450 (phone&fax)